Ⅳ-207　高齢者の交通行動特性から見た交通事故要因の分析

金沢大学工学部　正会員　高山　純一*
金沢大学大学院　○松生　智**

1．はじめに

近年、高齢化が急速に進展しており、それに伴う高齢者の交通事故が急増している。その中で、高齢者の運転免許保有者数も増加し、これまで交通事故の被害者的存在であったものが加害者側にまわる例が増えてきている。また、それに加え、道路状況の複雑化、道路交通量の増加といった交通環境面での問題が交通事故の潜在的要因となることもある。従って、高齢者事故の防止のためには、その事故要因を詳細に分析する必要があるが、そのためには高齢者の日常の交通行動特性と交通環境に対する安全意識の実態、交通行動の実態を把握することが重要となる。

2．研究の目的

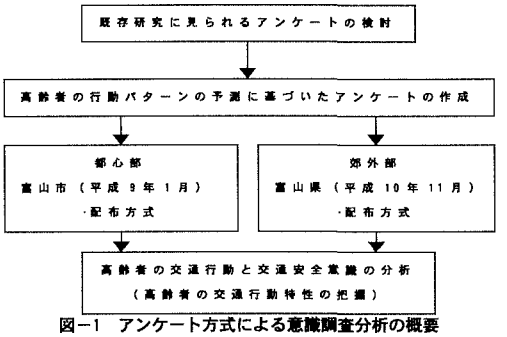
本研究では、高齢者の交通事故に対する潜在的危険性を明らかにするために、交通安全意識調査により高齢者の交通行動特性の分析を行う。具体的には、富山県を対象に高齢者の交通行動特性と交通安全意識に関するアンケート調査を実施し、それらの関連性を明らかにする。さらに，都市部と郊外部での高齢者の意識調査を比較し、意識の違いを検討する。なお、今回の調査で富山県を調査対象とした理由は、高齢者人口に比較して、高齢者が交通事故で死亡する割合が非常に高いからである。

3．高齢者の交通事故要因分析のための高齢者の交通行動特性の分析

アンケートの調査方法の概要を図-1 に示す

(1) アンケート調査の方法

富山県警本部交通企画課の協力の下、配布形式のアンケート調査を行った。これは富山県警本部交通企画課から様々な団体に協力を呼びかけ、各高齢者の方へ団体の方からアンケート用紙を配布し、後日郵送してもらう形式を用いた。



図－1　アンケート方式による意識調査分析の概要

(2) アンケート調査の調査項目

アンケート調査の調査項目は以下の通りである。

1）年齢、性別、住所
2）先週１週間の行動実態
3）歩行に関する高齢者の実態
4）運転免許の有無と現在の自動車運転状況
5）交通安全に関する一般知識
6）道路横断に関する高齢者の実態
7）車両と高齢者とのすれ違いの状況
8）夜間、冬期における交通行動の実態
9）自転車利用の高齢者の実態

(3) 富山市（都市部，郊外部）における高齢者の交通行動特性に関する意識調査

図-２は運転免許の有無を示している。両地域ともに半数以上が免許を所有していたが、特に郊外部では何らかの運転免許を所有していると回答した高齢者が７５％以上もおり、自動車を運転する機会が多いことが予想される。

図-３は外出目的が買物等における外出時の主な利用交通手段について示したものであるが、都市部では「徒歩」、「自転車」と回答した人の割合が高いのに対し、郊外部では「自家用車を運転」と回答した人が５０％を越えるなど、郊外部の高齢者は都市部と比較して自動車利用への依存度が高いことが分かる。またこのことは郊外部では自動車運転免許を所有す

Key Words : *Traffic Safety , Old People,*
*：金沢大学工学部土木建設工学科　〒920－0942　石川県金沢市小立野 2-40-20
**：金沢大学大学院自然科学研究科環境基盤工学専攻
TEL 076-234-4650　FAX 076-234-4644　E-mail takayama@k1news1.ce.t.kanazawa-u.ac.jp.

る高齢者が多いということを反映している。

図-４は押しボタン信号機の横断状況を示したものである。都市部と郊外部では交通量に違いはあるものの、両地域とも半数以上が「必ず利用する」と回答している。また、利用状況は都市部の高齢者の方が高いことが分かる。しかし、郊外部では「押しボタン信号機を利用しない」と回答した高齢者が１４％もいることから、交通事故の危険性をはらんだ結果といえる。

図-５は車と人間との相互関係に対する意識を示したものである。都市部、郊外部ともに、選択肢③と回答した人が５０％を超えている。しかし「車の方が注意深い行動をとるべき（選択肢①、②）」とする考え方が「人間の方が注意深い行動をとるべき（選択肢④、⑤）」とする考え方と比較して両地域で高い割合を示している。このことから、歩行者側の立場ではドライバー（他人）に依存している傾向が見られる。

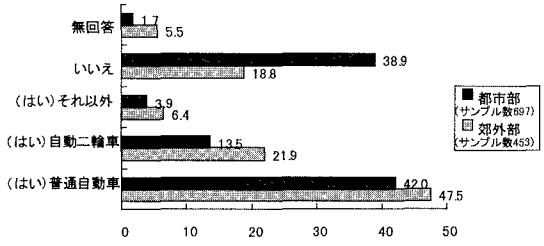


図-２運転免許の有無

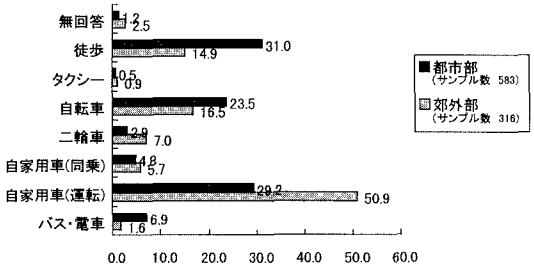


図-３外出時の主な交通手段（買物等）

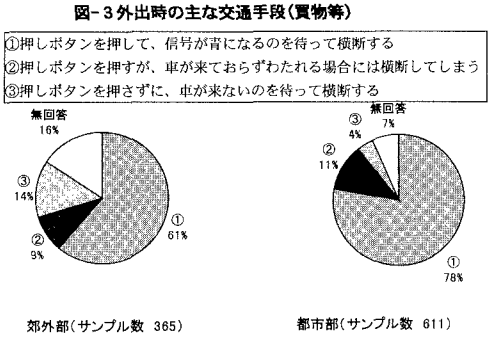


図-4 押しボタン信号機の横断状況

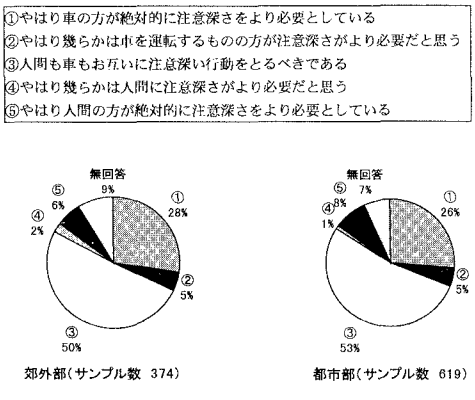


図-5 車と人間との相互関係意識

5. 結論

交通環境においては意識面と実際の交通行動には特に高齢者において差異が見られることが予想される。また、その環境、行動範囲、行動手段の違いにより高齢者の行動にも相違点が見られる。高齢ドライバーが増加している今、これらを考慮して高齢者の交通安全意識調査の分析結果をもとに交通事故要因の分析を行うことが必要である。また、高齢者に対する更なる交通安全知識の幅広い普及と共に、高齢者の意識面での問題点、改善点を見出し、今後改善していく必要性があるといえる。最後に、本研究は（財）佐川交通社会財団からの研究助成の一部として行ったものである。また、アンケート調査を行うにあたり、富山県警察本部交通企画課の御協力をいただいた。ここに記して感謝したい。

［参考文献］

1）小寺一樹：「高齢者の交通行動特性からみた高齢者交通事故の要因分析に関する研究」（平成８年学士学位論文
2）小林實：「高齢ドライバーの運転実態と事故特性」（国際交通安全学会誌　vo9, No.5　pp24～35／1983年12月）
3）明神証・中塚正倫：「高齢者の交通死亡事故死傷率・死亡率」（第16回交通工学研究発表会論文報告集　ｐｐ189　192／1996年11月）